

## はじめに

私たちの住む置賜地域は人口が次第に減少していき、そのまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、「地方消滅」さえ懸念されます。様々な要因の一つに、高校生が進学・就職で県外に出て戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。地域と私たちの未来はどうなるのか、二年後に進学・就職を迎える高校二年生にとっては、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路に進むにしても大事なことです。

このような趣旨から「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』第2回小論文コンテスト」を高校二年生を対象に実施いたしました。応募された生徒の皆さん、そしてご指導いただいた先生方に心から御礼申し上げます。応募総数は82点あり、昨年とほぼ同じ参加で大変喜んでおります。小論文を読みますと、資料編を活用し自分の体験や知見をフルに発揮して、郷土の未来を想像し自分の生き方を展望するという趣旨に沿った小論文を書いてくれました。高校二年生の今、この小論文に取り組んだ経験はこれから先必ずどこかで役立つものと思います。

この小冊子は、審査の結果、受賞された最優秀賞1点、優秀賞4点、入選5点を収録したものです。広くお読みいただき、地域の未来を共に考えていきたいと思えます。

令和元年十月二十五日

高校生小論文コンテスト実行委員会

## 審 査 講 評

第二回小論文コンテストに、多くの意欲的な小論文作品を寄せていただいたことを、大変に意義深く感じました。郷土の現状・今後・未来における課題の解決策を考えることは、高校二年生にとつて相当難しいものであることと思ひます。その中でも、自分の体験や知見を土台として、近きより模索して実践を次第に広げていくことが重要です。

コンテストへの応募を契機に、地域が抱える問題状況について初めて知り、地域の未来や自らの今後の生き方について初めて考えたと思へる作品が多くありました。正面から向き合つて、真面目に考えたものばかりで、頼もしい限りです。この応募を機に生じた問題意識を今後とも大事に育み深めて、自らの今後に生かして取り組み続けられることを期待します。応募作品の審査に際しては、応募者の熱意を受け止めながら慎重に当たりました。小論文として、書き手の顔が見えるか、根拠を持つて述べているか、紙数の少ない中で羅列的ではなく焦点化して起承転結ある論を深く展開しているか、論旨が読み手へ伝わるか等、審査委員八名の多様な視点からの討議を経ながら、審査を行いました。

なお、書き手の豊かな創造性にも関わらず、誤字・脱字、主語・述語の乱れなど、提出前に読み返す習慣があれば防げるものや、文字が薄く、また小さい文字で書かれて読みにくいものも見られ、他人が読むものと考えれば改善できるものも少なからずあったことを、念のため記録しておきます。

むすびに、真摯に取り組んでいただいた応募者に敬意を表し、今後のご活躍ご精進をお祈りします。